
【編集後記】

『現象と秩序』第18号をお届けします。今号には、新旧のさまざまな調査に基づいた論文が5本集まりました。本誌らしい品揃えであるといえるでしょう。

第1論文は、「Zoom」利用時によくみられる現象、すなわち「早口で言いたいことをまくし立てる」というような不思議な現象についての研究です。そのようなことがなぜ起きるのか。それはいったいどんな効果を持っているのか。これらの問いにビデオデータの解析を通して答えるものになっています。オチは、コミュニケーション上の必要に対応してのことなのだ、という謎解きになっており、データに基づいた着実な研究であるといえるでしょう。

第2論文は、試着場面研究です。試着室で鏡を通して客と店員がコミュニケーションをしているとき、じつは大量の想像がコミュニケーションに伴っているという主張こそは「試着」というものの豊かさを示すものでしょう。本来なら軽蔑の対象となりそうな「自賛」に類似した活動が、試着においてどのように可能となっているのか、の謎解きも秀逸です。

第3論文と第4論文は、いずれも社会言語学的な「罵り言葉」の研究です。関西における罵り言葉には、言及対象の価値を引き下げる効果以上の質があると感じていましたが、このように実例をもって丁寧に例証されると納得です。用例を探しながら青空文庫の『わが町』を読みましたが、とても人情味があってほっこりしました。本作は映画化もされています。実際にどう発話されているか、興味を持ち、現在取り寄せ中です。

第5論文は、「AIと人間の関わり」に関して示唆的でした。AIは、人間の内部にいる他者として、人間の活動を助ける振りをしながらじつは統制しているのではないか。具体的には、人間の現在の選択肢構造を強く支援することで、選択肢構造の変更可能性を実質的に抑圧しているのではないか。そうすることで、人間が新しい人生を生きる可能性を封じているのではないか、と恐ろしく思われました。ゲーム研究から文化研究への道筋が、この路線の先に描き得るようにも思われます。(Y.K.)

『現象と秩序』編集委員会（2022年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樫田美雄（神戸市看護大学）、中塚朋子（就実大学）、加戸友佳子（神戸大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第18号 2023年 3月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 樫田研究室 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074 (樫田研), e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>

【「現象と秩序企画編集室」の移転について（ご報告）】

本誌は2014年10月の第1号刊行以来、約9年間、編集事務局としての「現象と秩序企画編集室」を、神戸市看護大学内に置いてきました。しかし、今回、諸般の事情から次号以降（2023年4月以降）の編集室を摂南大学・現代社会学部内の榎田研究室に移動させて業務を続けることになりました。電話番号と住所は以下に変わりますが、電子メールアドレスに変更はありません。どうかこれからも倍旧のお引き立てをどうぞよろしくお願いいたします。

＝「現象と秩序企画編集室（2023年4月～）」の移動後の住所と電話番号＝

発行所 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

摂南大学 現代社会学部 榎田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 072-800-5389（榎田研），e-mail： kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>
